

令和2年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館協会小中学校図書館部会 副部会長 小山 正博

令和2年度の長野県図書館協会小中学校部会では、昨年度に引き続き「学びと心のより所となる学校図書館ー学校内・外の連携による読書・学習・情報センター機能の構築を目指してー」のテーマのもと活動を行う予定でしたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大のため思うように活動を行うことができませんでした。

本来でしたら部会が目指す学校図書館運営としては、主なものとして、以下の4点になります。

- 「1. 創造力を培い、豊かな心を育む『読書センター』としての学校図書館」
- 「2. 知的活動を促し、自ら学ぶ力を育てる『学習センター』としての学校図書館」
- 「3. 情報活用能力を伸ばす『情報センター』としての学校図書館」
- 「4. 学校内・外が連携して教育力を高める学校図書館」

これら4点については、本年度より小学校で、来年度より中学校で実施される新学習指導要領で言われている「主体的・対話的で深い学び」「情報活用能力の育成」「社会に開かれた教育課程」等ともつながり、今後ますます学校図書館の果たすべき役割が大きくなっていくと考えられます。教育課程に位置づけられた学校図書館のあり方を今後も探っていきたいと考えています。

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校司書委員会が1回のみで開催となってしまいましたが、司書教諭研究委員会と合同で開催いたしました。話し合った内容は、2種類のアンケート項目についてです。一つは、「図書館運営における新型コロナウイルス感染防止対応アンケート」もう一つは、「図書館ICT環境アンケート」です。今後も新型コロナウイルス感染拡大はいつまで続くのか不透明であります。そうした状況の中、感染予防をしながらどのような活動ができるのかアンケートをとり、集約してお互いに対応策を共有することは、今後につながると考えております。また、図書館のICT環境についてもインターネット環境を確認することで、ネットを利用した活動を共有できればと考えております。司書教諭の先生方と共に検討したことで、それぞれの立場からの意見が出され、有意義な会となりました。この2つのアンケート結果については、来年度の長野県図書館大会で発表させていただく予定です。

委員会では、この他に学校司書委員会として、各支部の代表者から支部ごとの取り組みや課題について意見交換を行いました。支部によっては感染拡大対策のために様々な工夫をしていることが分かり大変参考になりました。本年度1回だけの委員会でしたが、お互いに顔を見ながら意見交換をすることの大切を改めて感じることができました。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応策を工夫され、学校図書館運営に尽力されていらっしゃる長野県図書館協会小中学校図書館部会の皆様にお礼を申し上げますとともに、令和3年度第71回長野県図書館大会（中野・下高井大会）へのご協力をお願いいたしまして活動報告といたします。

第70回長野県図書館大会（安曇野大会）を終えて

安曇野支部代表 濱野 久（豊科北中）

1 はじめに

昨年の台風災害や今年のコロナ禍は、長野県内の学校や図書館にも甚大な影響を及ぼし、従前のシステムでは知る権利、学ぶ権利を十分に保障することができないことを、私たちは身をもって知らされました。テレワークやWEBを使った会議、オンライン授業が行われている現在、学校や図書館も大きな変革の時代を迎えています。

コロナ禍の中で開催が危ぶまれた本大会でしたが、「今だからこそ開催する意義がある」という熱い思いの下、10月17日（土）に安曇野市豊科公民館をはじめ県内各地区の11会場に285名が参集し、『ICT活用と災害に負けない図書館づくり』をテーマに、WEB開催という形で実現しました。



「密」を避けて(豊科公民館)

2 本大会の様子

原山県教育長、宮下大会長、宮澤安曇野市長からのビデオメッセージによる開会式に続き、次の五つの分科会からWEBによる実践発表がありました。

「ウェブを活用したコミュニケーションの場づくり」(長野県/公共図書館部会)

「デジタル図書館－高森町ほんとも Web Library－開始と経過」(高森町/公共図書館部会)

「高森町子ども読書支援センターがめざすもの」(高森町/小中学校部会)

「令和元年東日本台風による水害と復旧について」(千曲市/公共図書館部会)

「動画配信によるオンラインサービスの展開－おうちで図書館を楽しもうシリーズ－」

確かな実践に基づく先進事例の発表に、参加者の皆様からは、次のような感想が寄せられました。

・コロナ禍での活動や災害時の対応など不測の事態での事例



塩尻市の実践事例紹介

など、司書の専門性を生かして進められることがとても刺激的だった。

また、来年度の県大会に向けて、参加者の皆様から次のような要望が寄せられました。

・今年度の「ICT活用と災害に強い図書館」を新たな分科会として加えていくことがよいと思う。

また、県外先進地域の取組の発表がWEB等で取り入れられるとよい。

・タブレット配布後の図書館の活動事例、教員との連携授業をどのように進めているのか、「GIGAスクール構想と図書館」をテーマに新たな分科会ができるとよい。また、高齢者へのICTサービスについても地域支援となるので知りたい。・新型コロナウイルスの拡大に伴う措置であったが、このような形での開催は今後につながる一つのケースであると感じた。今回のWEB開催をさらに進化させられるとよい。



各会場をWEBで結んで

3 おわりに

WEB開催という初めての試みでしたが、多くの皆様にご理解、ご協力をいただき、このようにたくさんの成果を残して終了することができました。本当にありがとうございました。

第70回長野県学校図書館大会（安曇野大会）参加者の声

第70回長野県図書館大会（安曇野大会）に参加して

安曇野市穂高東中学校 鬼塚千春

今年度のような状況下で、まず長野県図書館大会が開催され、参加できたことは大きな学びの場となりました。今年度は本会場とサテライト会場を Web で繋いで、規模を縮小して行うことになりました。本会場は安曇野市豊科公民館大ホールで行われ、県内各地の公共図書館で分科会が行われました。以下分科会の発表内容を抜粋して紹介します。（分科会参加者285名）

(1) ウェブを活用したコミュニケーションの場作り（県立長野図書館）

(2) デジタル図書館—高森町ほんとも Web Library—開始と経過（高森町立図書館）

(3) 高森町子ども読書支援センターがめざすもの（高森町立図書館）

(4) 令和元年東日本台風による水害と復旧について（千曲市立更埴図書館）

- ・台風19号の被害の概要、千曲市更埴図書館の概要及び更埴図書館の発災後の対応の説明
- ・今回の水害被害に係る反省点と課題

(5) 動画配信によるオンラインサービスの展開（塩尻市立図書館）

「おうちで図書館を楽しもう」シリーズ

・コロナ禍での塩尻市立図書館・POP 動画作成と動画の展開について・動画の注意点と利点

・サテライト配信・拠点としての塩尻市立図書館・コロナ禍と ICT 活用・今後の取り組み図書館を利用した授業や学習も思うようにいかないことが多かった今年度でしたが、大会に参加することで、改めて図書館や本のもつ可能性を確認することができました。

第70回 長野県図書館大会(安曇野大会)に参加して

安曇野市立堀金小学校 梨田真由

10月17日、今年度の図書館大会が安曇野市豊科公民館を主会場に「ICT活用と災害に負けない図書館作り」というテーマで開催されました。今回は新型コロナウイルス感染予防のため、サテライト会場として県内9会場が用意され、Web会議ソフトを用いて各会場を結んでの開催でした。

分科会の中で特に心に残った発表が高森町立図書館の大洞さんの『デジタル図書館-高森町ほんとも Web Library-開始と経過』という発表です。こちらの図書館では昨年の6月から電子図書館が開設されました。導入目的の一つに「英語科の授業での利用」があると知り、音声読み上げ機能でリスニングの勉強をしたり、多読本を沢山借りたりと、読書をするだけではない利用の仕方があることに気づきました。電子図書館の最大のメリットはインターネット環境があればいつでもどこでも本を借りて、スマホやPCで読むことができることです。来館が不要なため、新型コロナウイルスの流行で図書館が休館した時や外出が阻まれる時にも大変便利だと思いました。

今年度の学校図書館は感染警戒レベルによって活動が制限されるため、予め決められた時間にしか図書館を利用できない状況が続きました。今回のお話を聞いて、もし学校にも電子図書館が導入されたらこんな時に便利だな、あんな使い方も出来るなど様々な想像が膨らみました。来年度から安曇野市内の小中学生には一人一台タブレットPCが配布されます。それに伴い、学校司書の立場から何が出来るのか悩んでいたのが、今回は他地域のICT活用の様子を知ることができ、多くの知見を得ることができました。ICTと学校図書館それぞれの良い点を上手く組み合わせて、読書センターとしてだけでなく情報センター、学習センターとしての役割をバランス良く担う図書館作りをしていきたいです。

各地区の実践・研究の取り組みから

北信地区

「北信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

上高井郡 栗ガ丘小学校 宮寄美代子

1 研究テーマ「子ども達が、対話的な活動を通じて『読みたい本』と出会い、

読書を楽しみながら、自らの考えを広げ深めていく図書館教育を目指して」

2 公開授業・授業研究

	授業者	教科・単元名	指導者
1回目 7月	5年2組 宮原 徹	国語 「図書館をつかいこなそう」	北信教育事務所 学校教育課指導主事 目黒哲朗先生
2回目 12月	5年2組 宮原 徹	国語 「伝記を読み、自分の生き方について考えよう」 やなせたかしーアンパンマンの勇気	北信教育事務所 学校教育課指導主事 目黒哲朗先生

3 講演会 中止

4 参加人数 校内45人

5 まとめ

- (1) 「図書館をつかいこなそう」の単元では、図書館の日本十進分類法を理解し、それをもとに今までの自分の読書を振り返って、友だちと対話しながら新しい本と出会う活動をしていった。その後の児童の読書の様子をおって見ると、手にとって読んだことのない分類の本を読んでいる姿が見られた。クラスの友達が自分のために読書の傾向を見て、自分に合いそうな本を薦めてくれたことで、少し難しい本にもチャレンジし、いろいろな分野の本に興味をもって読書を進めている子が増えた。新しい分野の本を読むことで自分の考えを広げたり深めたりするような読書がではじめたようだった。
- (2) 二回目の公開授業では、まず、やなせたかしさんの伝記から、出来事や描かれる人物の相互関係、心情について描写を基に捉え、人物の生き方を理解した。そして、伝記を通して見いだした生き方や考え方について友達と共有していった。単元と同時に伝記を並行読書して「伝記通帳」に感想などを書き残していった。伝記の内容や心ひかれた言葉から自分を振り返り、新たな考えや理想を紹介文に書く姿が見られた。さらに友だちと紹介文を読み合い自己を見つめ直すことにより、授業前と授業後の児童の「生き方」への考え方の変化も見られた。
- (3) 5年2組の子ども達の前年度読書数はクラス平均で66.1冊の貸し出し数であったが、本年度は12月の時点で平均103.2冊であることから子ども達の意識の変化が見られた。図書館に通う子ども達も増え日常的に読書に親しむ姿がある。授業の合間に少しでも読書の時間を作るととても喜ぶ様子が見られる。
- (4) 読書という学習の成果は、なかなか目に見えにくいものであるが、子ども一人ひとりが読書を通じて「豊かな心」を養うために、これからも、全校でじっくり丁寧に継続して指導していきたい。



クラス平均冊数(昨年度)	クラス平均冊数(今年度12月迄)	学年平均冊数(今年度12月迄)
66.1冊/年	103.2冊	69.7冊



名前	今の自分が大切にしている生き方(授業前)	今後大切にしたい生き方(授業後)〈読んだ伝記〉
Nさん	進撃のマンガをコンプしたい 新しいゲームがほしい	「人のために積極的に問題点を見つけ解決方法を出せる生き方をしたい。〈レイチェル・カーソン〉
Gさん	なし	ひきょうな生き方はやめて自分の目標に向かっていく生き方。〈真田幸村〉

1 研究テーマ 【保健体育科研究（図書館教育）テーマ】

『わかる』と『できる』を結びつけ、自分のもっている運動感覚を仲間に伝えられる力を高める体育指導の在り方（表現するストーリーを図書館の本から選ぶ活動を取り入れた実践）[領域・単元名] 2学年 ダンス領域創作ダンス：「ストーリーとダンス！」

2 保健体育科における図書館教育

これまで、保健体育科の学習の中で、図書館を活用して授業を行う場としては、体育理論の学習や保健分野の学習があった。これらは、レポート作成のための資料収集を、図書館にある本を用いて行うことが主であり、図書館の「学習・情報センター」機能を活用してきた例である。一方で、運動技能の習得のために図書館を活用するということはほとんどなかった。今回は、ダンス領域の学習において、ダンスで表現する主題を「図書館にある本」とし、「読書センター」機能を保健体育の学習に活用することをねらった。このことは、生徒にとって、ダンスの技能の向上に役立つだけでなく、これまでに親しんできた本をさらに身近なものとして感じたり、内容理解を深めたり、これまで読んだことのなかった本に触れる機会を作ったりすることにもつながると考えた。

3 実践内容 【物語の本のストーリーを身体表現する学習の構想】

本校でこれまでに行われてきたダンスの授業を振り返り、ダンスが「イメージを捉えて自己を表現することを楽しさや喜びを味わうことのできる運動」という点に立ち返り、創作ダンスの活動を取り入れた学習活動を構想したいと考えた。

本単元では、表現する主題を、生徒が日常的に慣れ親しんでいる「学校図書館にある物語の本のストーリー」とした。これは、生徒にとって身体を使って表現すべきイメージをもちやすくなると共に、生徒間でイメージの共有が行いやすいと考えたためである。この中で、学習を大きく3段階に分けて、段階的にダンスの創作活動を行った。まず、第1段階として、図書館で選んだ物語のストーリーを「起」「承」「転」「結」の4段構成に分け、あらすじをまとめた。第2段階として、物語のストーリーを演劇やパントマイムの手法を用いて、簡単な身体表現を行う活動を行った。第3段階として、他のグループとダンスを見合いながら身体表現の動きにさらに工夫を重ね、物語のストーリーを表現できるようにしていった。こうすることで、生徒は表したい主題のイメージを明らかにし、イメージを捉えて自己を表現する楽しさを味わうことができると考えた。

4 研究のまとめ

今回、「図書館教育を保健体育科の学習でどのように位置付けられるのか」という視点で授業構想をしてきた。初めは全く授業がイメージできず、「図書館をどのように使えばよいか」と考えていた。しかし、「読書センター機能」、「学習センター機能」、「情報センター機能」という図書館の3つの機能面から教科の学習を考えたときに、様々な活用の可能性があることが見えてきた。特に、保健体育科という一見、図書館とは縁の遠い印象を受ける教科であっても、生徒が日常的に親しんでいる「読書活動」と結びつけられることが分かった。このことは学習指導要領に示されている「教科横断的な学習カリキュラム」にもつながるものであり、様々な教科で身に付けている資質・能力が教科を越えて活用されることで、より深い学びへとつながっていくことが、生徒の姿を通して見えたような気がした。今後、教科性を大切にしながらも、さまざまな学びを通して生徒が身に付けてきた資質・能力を生徒が自ら活用し、生徒自身の手によって問題解決ができる、そんな力を高められる授業実践を行っていきたい。

今年度の学校図書館大会は、岡谷市立東部中学校と岡谷市立長地小学校にて行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため、岡谷市学校図書館委員会の先生方と長地小職員のみによる授業研究という形で行われました。

以下は、11月17日（火）に行われた長地小学校の実践報告になります。

図書館教育実践報告

岡谷市立長地小学校 研究主任 中村真佐代

1 研究テーマ

人・もの・ことと関わり、幅広い読書を通して、豊かな学びを育む授業

2 研究授業

総合的な学習の時間 単元名『AKHプロジェクト～遊びでコロナをふっとばせ～』

・授業者 4年1組 篠原 亜未 教諭

【指導者 南信教育事務所 鈴木 伸幸 指導主事】

<主眼>『遊びの説明書』の書き方や写真の入れ方、文字の大きさなどを学び、自分たちオリジナルの説明書を作った子どもたちが、お互いに説明書を見合い、アドバイスをし合う場面で、相手に伝わる説明書はどこが工夫されているのか話し合い、自分たちの説明書はどうするか、さらに工夫しようと考えることができる。

3 授業研究会（参観した先生方から）

- ・今までの学習の積み重ねがあり、意欲的に楽しく学べる題材であった。
- ・何冊もの手元の本に付箋がたくさんあり、今まで多くの本で調べたことがよく分かった。
- ・実際に「遊び」を体験してみて、アドバイスをし合っている場面がよかった。
- ・言葉だけではなく、『絵や写真で伝える説明書』になっており工夫されていた。
- ・自分ではよくできていると思っても、相手には伝わりにくいことが分かったようだ。書いて伝えることはなかなか難しいが、そこが良い学習になっていた。
- ・アドバイスや感じたことを、付箋に書く時間をもっと長くとれるとよかった。
- ・今後の子どもの生活で、多くの仲間遊びを紹介し合うことができる学習内容であった。

4 まとめ

本の活用の仕方にはいろいろ考えられる。今回は、さまざまな分野の本を手にとって調べたことを参考に、自分たちの説明書をより分かりやすくしようと意欲的に考え合っていた。ふだん読むことが少ない分野の本も手にする姿もあり、今後も目的に応じて自らいろいろな本に接し、読書の幅を広げていってほしいと願っている



↑ 互いの班で調べた「遊び方」を紹介し合う場



↑ ここに写真を入れて分かり易くしようよ

7月17日 岡谷市立岡谷東部中学校

学校図書館教育大会に寄せた数学科の実践研究授業を通して

岡谷東部中学校 五味 都佳佐

1 研究テーマ 「本と学習をつなげよう」

2 公開授業

会場	授業学年・授業者	教科・単元名	指導者
岡谷東部 中学校	中学校3年 片瀬 翔 教諭	数学 「平方根」より平方根の利用	南信教育事務所 指導主事 板倉新一先生

3 参加者人数37人（コロナ感染症対策のため校外参加は市内中学司書教諭に限った。）

4 まとめ

(1) 昨年度の講演から、中学校では授業に図書を活用しやすい教科としにくい教科があることを知り、活用しにくいとされた数学で、図書を利用して学ぶ授業を検討した。

(2) 新型コロナウイルスの拡大に伴い、例年のような図書館大会ではないが、図書館教育の実践研究として校内の全校研修授業を行うことができた。

(3) 数学科で単元の目標とした「授業で習う内容と実生活のつながり」を、図書で黄金比・白銀比の例を示しながら授業を行った。生徒の知っている建物やキャラクターに平方根が使われていることや、A4用紙の縦と横の長さを測るなどのことで、生徒の興味関心に結びついた。

(4) 前時と本時を使って、日常生活の中に平方根が利用されていることを学習できた。

(5) コロナ感染対策のためグループでの話し合いは設定できなかったが、個人追究の中で、分からない部分を相談したり図を書いて説明をしたりする姿が見られた。

(6) 授業研究会では小グループで数学科の出した観点で話し合い、ボードにまとめて掲示しながら発表した。

子どもの学びの姿から、身近な物に平方根が使われている証明と、授業のどこで図書資料を提示したらより興味をひかれたかについて、全体で検討ができた。

(7) 研究授業を通し、授業の学習の目的に応じて様々な本を読む第一歩となった。他教科でも授業での図書利用も進めていけるよう職員との連携を図りたい。



前時で資料にある画像を実際に計測した。



本時は個人追究の時間を多く取った。



「東信地区学校図書館教育研究会にかえて」

佐久支部代表 佐久市立臼田小学校長 仲沢 弘一

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、今年度の東信地区図書館大会は中止となったが、それぞれの学校で実践の積み重ねは続いている。以下にその一部を紹介する。

2 臼田小学校の実践から 単元名「目的に応じて調べ、要約しよう」(4学年：国語科)



第6時 ポプラディアを見ながら考えを巡らせる児童の様子より

図書館にある百科事典に興味をもった子どもたちが、百科事典の特徴や使い方を学んだ後、一人一人要約したい見出し語を選び、短くまとめたり、わかりやすい言葉に置き換えたりしていった。その学習の中で「自分の調べたことを伝えたい」「友だちの調べたことを知りたい」という欲求が生まれ、友だちとの学び合いに向かう姿が見られた。東信教育事務所指導主事川下 高志 先生からもご指導いただき、さらに、必要感と相手意識をもって、調べ、伝えていく学習を構想している。

3 臼田中学校の実践から 題材名「名画に学ぶ～なりきり名画を作ろう」(3学年：美術科)

臨時休校中の課題であった鑑賞レポート学習をさらに発展させ、図書館の図鑑や資料を活用して、作品の動きや心情について考えを深める学習を構想した。第2時では、第1時で行った「最後の晚餐」の鑑賞から感じ取ったことをもとに、その感情が伝わるように、実際に生徒自身が登場人物13人になりきって、実演をしてみた。グループ活動の中で、友と共に協力する楽しさを味わいながら、多様な感性に触れることで、自らの感性に磨きをかけていく生徒たちの姿があった。



第2時『最後の晚餐』になりきろうの様子より

グループ活動の中で、友と共に協力する楽しさを味わいながら、多様な感性に触れることで、自らの感性に磨きをかけていく生徒たちの姿があった。

4 おわりに

私たちには「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童・生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること」が求められている。これは、簡単なことではない。課題は多い。しかし、一つずつ乗り越えていきたい。その乗り越えるためのエネルギー源の一つは、自校の研究会での学び合いや、他校の実践からの学び合いだったりするのではないだろうか。

(文責 佐久市立臼田小学校 教頭 依田 学)

読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

担当幹事 長野市立浅川小学校 関川 あかね

令和2年度、第43回長野県読書感想文コンクールについて報告します。各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：338校 ◇応募作品数：2774編 ※小・中合計数で表示
◇県入選（県応募）作品数：470編 ◇県入賞作品数：255編
◇中央審査会応募作品数：8編 ◇中央入賞作品数：0編

昨年度の応募作品総数は、一昨年度の5000編台から3000編台へと大幅に減少しました。要因としては、児童数の減少や教育課程の改定に伴う教育活動の多様化で読書指導の時間が十分にとれなかったことなどが挙げられました。今年度は、その3000編台を若干下回りましたが、コロナ禍において、なかなか教育活動の見通しがつかなかった学校事情を考えますと、十分取り組んでいただいたと感じられます。お忙しい中、各支部や各校で素晴らしい作品を応募いただきありがとうございました。支部・県審査委員の先生方には、多くの感想文を精読し厳正に審査いただき厚く御礼申し上げます。

県審査にあられた委員の先生方からは、「子どもたちの感じ方が多様であったり主題や著者の主張に対する深い読みがあったりと、感心させられ学ぶことが多かった」「多くの作品が、その子にしかない視点で、素直な思いがあふれる低学年らしい感想がよかった」「読書により興味や感心が広がったり考えが変わったり新しい知識を得たりしたこと喜びが表されている作品が多いと感じた」「どの作品も自分の体験や考えを交え中学生なりによく書かれていると感じた。中学生の課題図書では身近な題材の作品もあれば、日常生活とは違い書くのに苦労するような作品があったが自分の経験をうまく結びつけたり自分の主張を入れたりして仕上げてきた感じがした」等の貴重な感想をいただきました。

一方で、字数が足りない、原本でなくコピーで応募されている等の審査基準を満たさない作品や基本的な表記の間違いの多さが指摘され毎年の課題になっております。同じ学級の作品が高いレベルで入選する例もありました。ご指導の際には、読み直しや推敲等の見届けをしていただくと共に字数を含め、要項に沿った応募を心がけていただくようお願いいたします。今後も子どもたちへの読書の啓発、意欲的な感想文の応募を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度の読書感想画コンクールについては、各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：17校 ◇応募作品数：466点 ※小・中合計数で表示
◇中央コンクール応募作品数：8点 ◇中央入賞作品数：1点

本年度の応募校は昨年度より2校少ない17校となりましたが、応募作品数は、昨年度の413点から466点と若干増加しました。コロナ禍で応募数の激減も予想しておりましたが、読書感想画コンクールが浸透し定着してきたと感じられうれしく思います。応募作品については、子どもたちが、「おもしろい」「感動した」と思える素敵な本と出会い、その中での新しい発見や感動が子どもたちのイメージによって伸び伸びと表現された作品が多く寄せられました。各学級の担任の先生、部活顧問の先生の丁寧なご指導に感謝申し上げます。今後も、両コンクールが、子どもたちの読書生活を益々豊かにしていくことができますよう努めてまいります。最後になりましたが、両コンクールにご尽力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

部会だよりは長野県図書館協会HPでも
ご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第157号

発行日 令和3年2月25日

発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内

長野県図書館協会 小中学校図書館部会(代表 浅井かよ子)

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第155号

発行日 令和2年3月13日

発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内

長野県図書館協会 小中学校図書館部会(代表 宮尾弘子)